

国立大学法人 奈良女子大学

# 記念館 一般公開

入場  
無料

旧奈良女子高等師範学校本館 《重要文化財》

平成25年4月29日(月・祝)  
～5月5日(日)

午前9時～午後4時30分  
(入館は午後4時まで)

特別  
展示

奈良女子大学における最近の研究  
〈企画内容〉本学教員の研究に関するパネル展示

予告

次回企画：平成25年10月下旬～11月初旬

「奈良女子大学所蔵正倉院模造宝物と文化財科学」

## 交通

近鉄奈良駅1番出口から徒歩5分

JR奈良駅から市内循環バス

近鉄奈良駅前下車徒歩5分

※車での来場はご遠慮願います。

## 連絡先

奈良女子大学 総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL.0742-20-3220

FAX.0742-20-3205





奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校は1908(明治41)年3月に設置され、翌年5月から授業を開始しました。校舎の工事は1908(明治41)年2月からはじまり、翌年10月には主要な建物が完成しました。現在、奈良女子大学記念館としている建物は、奈良女子高等師範学校本館としてこのとき建設されたものです。

設計は京都帝国大学建築部長で奈良出張所心得の山本治兵衛が行いました。

木造二階建てで、外観の大きな特徴は、北欧によく見られる木部を外に表す壁構造のハーフティンバー形式をとっており、屋根には頂塔およびドーマー窓が設置されていることにあります。1階は中央に廊下が配され、これを挟む形で7室が設置されています。建物両端にある階段で2階に上ると、フロア全体が大きな講堂となっています。講堂内には柱は用いられず、中央部に二重に織り上げた天井には明かり取りの窓が配され、広々とした空間が広がります。

1994(平成6)年2月から6月にかけて改修工事が行われ、同年12月27日に正門および守衛室と併せて重要文化財に指定されました。

旧本館は建設以来、改変された箇所はほとんどありません。現在も2階講堂内部には奈良女子高等師範学校開校当時から使用されていた長椅子がそのままに並び、開校時に購入したもっとも古い国産ピアノのひとつであるとされる「百年ピアノ」がおかれ、往事を偲ぶことができます。



## 特別展示：奈良女子大学における最近の研究

奈良女子高等師範学校は、女子への教育機運の高まりに応えるため、国内で二校目の女子の中等教育を担う教員を養成する機関として、1908(明治41)年3月に設置されました。爾来、学制の変更にともない1949(昭和24)年に奈良女子大学となるまでに、3,072名の卒業生を輩出しました。

奈良女子大学は二校しかない国立の女子大学の一つとして設置され、「女子の最高教育機関として、広く知識を授けるとともに、専門の学術文化を教授、研究し、その能力を展開させるとともに、学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与すること」(本学学則より)を目的とし、日々教育研究活動を行い、28,171名(2012(平成24)年度末現在)の卒業・修了生を世に送り出しています。

記念館は開設以来、女子教育に取り組んできた本学の百有余年の歴史の象徴となっており、女子高等師範学校時代及び奈良女子大学草創期の教育資料および写真を中心に展示を行っています。

この度の特別展示は、本学で現在行われている様々な分野の研究についてみなさまにご紹介し、本学の研究活動の一端を知っていただきたいとの趣旨で企画しました。今後とも本学の教育・研究活動に、より一層のご理解とご支援をお願いいたします。

奈良女子大学記念館 館長 井上 容子

企画内容

### 本学教員の 研究に関する パネル展示

高齢者の営農をささえる  
「らくらく農法」の開発

人文科学系・准教授 寺岡 伸悟

ペレトロン加速器を使った  
原子衝突及び物質分析に関する研究

自然科学系・教授 小川 英巳

タンパク質考古学の創成

～タンパク質の分析で解く古代史の謎～

自然科学系・教授 中沢 隆

源流から河口域までの河川生態系と  
流域環境との連環構造

～紀伊半島の河川群の比較より～

共生科学研究センター長 和田 恵次

ナラノヤエザクラ清酒酵母由来の  
赤色色素生産株(アデニン要求性株)  
実用化に関する研究

自然科学系・准教授 岩口 伸一

文化財保存のための  
環境モニターシステムの開発

～カビ臭スペクトルデータベースとカビ種検出・  
検索ソフトウェア“MVOC Finder”～

自然科学系・准教授 竹内 孝江

蛍光プローブ分子による  
特定金属イオンのセンシング

自然科学系・准教授 三方 裕司

奈良県産葛蔓による健康増進

～機能性食品としての可能性～

生活環境科学系・助教 根岸 裕子

文部科学省地域イノベーション  
戦略支援プログラム

①無意識生体計測&検査による  
ヘルスケアシステムの開発  
②けいはんな学研都市ヘルスケア人材育成

社会連携センター長 内田 忠賢